安全・安心科学技術分野の課題について

CSTP　分野別推進戦略中間フォローアップ　社会基盤分野　中間取りまとめ
（平成２１年1月９日　分野別推進戦略総合PT）より、安全･安心科学技術分野を抜粋

＜安全・安心＞

○ 民間においても研究開発が実施されているが、国の研究活動状況の情報が民間に伝わっていないこともあり官民の連携が進んでいない。

○ 開発された機器やサービスが現場にまでつながる研究開発方式で実施することが重要であり、研究開発側とユーザー側の組織的な連携を促進する取り組みについて検討する必要がある。

○ 特にテロ対策技術等、市場が限られ、必要とされる技術情報の公開にも限度があるなど、民間参入のハードルが高い分野においては、公的機関を含めたユーザーサイドと研究開発側の連携とともに、両用技術の活用、実際の経験の蓄積がある海外先進諸国との研究開発協力体制の構築が重要である。

安全・安心科学技術分野の現状に対する問題意識（たたき台）

【問題意識１：研究開発フェーズ】

〇研究開発におけるシーズとニーズのマッチングの強化が必要ではないか。特に技術の普及に影響をもつ公官庁・ユーザサイドと研究開発サイドとの連携を強化すべきではないか。

〇民間の技術力の活用の強化が必要ではないか。特に、ニーズは高いが、市場が限られているものについて民間参入のインセンティブを高める必要があるのではないか。

【問題意識２：実装フェーズ】

〇ユーザーが限られ市場が小さいもの、革新技術等で新規市場の開拓が必要なものの研究開発や製品化を促進するための基盤（基準、標準等）について、国が整備を促進すべきではないか。

〇研究開発成果を社会実装につなげるため、初期需要の創出について国が支援すべきではないか。

【問題意識３：国際関係】

〇国際標準の検討等、研究成果の普及に必要な国際的活動への参画について国は支援を強化すべきではないか。

〇テロ対策技術等について、海外の豊富な知見・経験を我が国の研究開発に活かすために、機微情報を含む海外の先進諸国との協力を強化する必要があるのではないか。

【問題意識４：研究開発管理】

〇テロ対策に係る研究開発等、技術情報の公開や意図しない移転が好ましくないものについて、研究開発時の情報管理体制について明確化すべきではないか。

〇毒性の強い細菌の遺伝子情報等、悪用可能な科学技術情報の取扱いについて、何らかのガイドライン等を設ける必要はないか。